

近畿地方小委員会の概要と意見

□開催日時

平成26年3月5日（水）10:00～11:00

□場所

近畿地方整備局 新館 3階 A会議室

□委員名簿

氏名	所属・役職	出席
うらお ころ 浦尾 たか子	京南倉庫株式会社 常務取締役	
かわもと よしみ 川本 義海	福井大学大学院工学研究科 准教授	○
たまおか かおる 玉岡 かおる	作家 兵庫県教育委員	○
なかせ いさお 中瀬 勲	兵庫県立人と自然の博物館 館長 兵庫県立大学 名誉教授	
ふじい さとし 藤井 聡	京都大学大学院工学研究科 教授	○
むねた よしふみ 宗田 好史	京都府立大学大学院生命環境科学研究科 教授	○
【委員長】 やました あつし 山下 淳	関西学院大学法学部 教授	○

(敬称略、五十音順)

□対象事業

- ・一般国道42号（近畿自動車道紀勢線）すさみ串本道路

□議事概要（各委員からの意見）

【一般国道42号（近畿自動車道紀勢線）すさみ串本道路】

- ・南海トラフ巨大地震等の災害時において、いのちを守る道路として緊急性が極めて高い道路。
- ・津波発生時などに緊急的な避難場所としての効果も大きい。完成までの間も、避難場所として活用できる様、工事の順番を工夫すべき。
- ・和歌山県は、高齢化率の高い地域であり、福祉や医療水準を上げていくためにも、この道路の効果は非常に高い。
- ・大阪、和歌山の中心市街地からも遠い地理的な問題がある中で、高齢化をどう食い止め、若者が帰って来てくれるのか、地域の活性化のためにも道路が必要。
- ・高速道路整備と合わせて、高台移転など新たな街づくり、災害後の復興を行っていく上で、重要な道路。
- ・津波高は確保されているが、山岳地域を通過することから、法面崩落、土砂災害、地震の揺れ等によって、通行出来ない様なことにならないよう、構造に配慮して整備すべき。
- ・大阪都市圏、中部都市圏と繋がる近畿全体の広域ネットワークとしても重要な路線。
- ・高速ネットワークは、繋がってこそ意味がある。紀勢線全体に対して効果を期待しており、残る区間の早期完成に向けて努力すべき。

□結論

一般国道42号（近畿自動車道紀勢線）すさみ串本道路
の新規事業化については妥当である。